

## CONTENTS:

- P1 巻頭言「FD活動がめざすもの」
- P2 FD・SDフォーラム開催
- P3 寄稿「2016年度のFD成果」
- P4 2016年度後期授業アンケート結果報告

# FD活動がめざすもの

工学部長 井上 晋



2016年度は、学長方針『適正な評価基準に基づく厳正な成績評価』の提示、中央教育審議会大学分科会大学教育部会の『「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン』の公表、および本学の文部科学省平成28年度大学教育再生加速プログラム(AP)高大接続改革推進事業『テーマV 卒業時における質保証の取組の強化』への採択、など、本学の今後の教育に大きく影響を及ぼす事項がありました。このような状況のもと、各学部・学科においては、3ポリシーの見直しおよびそれらに基づく教育課程の改正、ディプロマ・ポリシーと各科目を関連づけるカリキュラムマトリックスの作成、シラバスにおけるミニマムリクワイアメントの提示等、個人としてだけでなく、各学科でも様々な検討をしていただいているかと思えます。

先生方は、これまでは個々の信念に基づき、独自の方法で授業を行ってこられたと思います。もちろんそれを否定するつもりは全くありませんし、教育者たるものはそうあるべきと思っています。しかし一方で、自身が教える科目が「学生にとってどのような能力をつけさせているのか」をじっくりと考えることは、私自身を含めこれまであまりなかったように思います。また、次年度からシラバスにミニマ

ムリクワイアメントを提示いただくことになりましたが、重要なことは、それを達成させるためにはどのような工夫をすればよいかを考えていただくことではないでしょうか。本年度は、改めてこれらのことを考えていただくターニングポイントと言えるでしょう。

さて、近頃の学生諸君は以前と比べて勉強しなくなったと言われていています。しかし、その一方で、研究や学生プロジェクト活動で優秀な成績をあげている者も少なくありません。「好きこそものの上手なれ」という言葉がありますが、日常の勉強や研究の中で如何にして学生諸君に興味を見出させてあげられるかが、私たち教員の共通の課題であると言えます。これまでも、アクティブラーニング、PBL、反転授業等、学生の興味を引き出し、教育効果を高める様々な手法をテーマとしたFD・SDフォーラムが開催されてきています。これらの内容を参考に、個人で改善を図るのは当然ですが、教職員間、ひいては全学で意見交換や議論を行うことが重要です。学生諸君がディプロマ・ポリシーを達成したうえで、何か特定の分野に興味を見出し、社会へ巣立っていってくれることが私の願いであり、それに向けて努力していきたいと考えています。

## 全学FD・SDフォーラムを開催しました

2016年度第2回（通算23回）FD・SDフォーラム 11月18日開催

### ■テーマ

「シラバスについて考える」

### ■講師

野村 良紀 氏（本学応用化学科 教授・教務部長）

椋平 淳 氏（本学総合人間学系教室 教授・教育センター長）

### ■場所

121 教室（大宮キャンパス）

1305 教室（枚方キャンパス）



全景（大宮キャンパス）

今回は「シラバスについて考える」というテーマで、2名の先生にご講演いただき、160余名の教職員が参加しました。

シラバスは、学生が何をどこまで学修しなければならないのか、を知る拠り所であり、自ら学ぶ科目を主体的に選択し、履修計画を立てる上で重要な指針となるものです。学長から示された「適正な成績評価基準に基づく成績評価」への取組み実施に伴い、2017年度のシラバスでは、学生が学修活動を進める方針として全授業科目の「到達目標」欄にミニマム・リクワイアメント（必ず修得しなければ、その科目の単位修得が見込まれないと予想される最低限の「知識・技能」「思考力・判断力」「態度・姿勢」など）を明示することとなり、また総合改革支援事業対策として、「授業外学修時間（既記載の予習・復習に費やす学修目安時間）」「課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの実施方法等」「卒業認定・学位授与認定の方針と当該授業科目との関連」についても、新たに記載することとなりました。今回のフォーラムは、この新たなシラバス記載項目等について、全学で共有する契機となりました。

今後FD・SDフォーラムでは学部・学科・授業単位の取組みをご報告いただく機会を設け、情報共有の機会となればとFD委員会では考えております。

今後FD・SDフォーラムでは学部・学科・授業単位の取組みをご報告いただく機会を設け、情報共有の機会となればとFD委員会では考えております。



講演を行う野村教務部長



講演を行う椋平教育センター長

## 参加者アンケートの集計結果を紹介します

アンケート提出者 169名

### 「テーマ設定についての満足度」 選択回答 集計結果

良い=87名 (51.5%)      まあまあ良い=52名 (30.8%)      普通=22名 (13.0%)      やや悪い=1名 (0.5%)  
 悪い=2名 (1.2%)      未回答=5名 (3.0%)

(P3に続く)

## 「テーマ設定についての感想、その他意見」紹介（抜粋）

- 新年度のシラバス作成を依頼する前のタイミングで開催された点は良かった。
- 今後作成するシラバスの方針が分かり、共通認識を持つという点で良いテーマ設定だと思う。
- ミニマム・リクワイアメントの抽出方法・設定方法が良く分かった。
- 他学科のシラバスを読む機会となり、とても参考になった。
- 専門科目は複合的な内容を含んでおり、学生個々の得手・不得手もあることから、ミニマム・リクワイアメントは包括的な書き方にするのが望ましいと思う。
- 学生の質保証にいかに関わりかかるといった内容であり、時宜に合ったテーマ設定であった。
- ここ数年はシラバスの厳正化、アクティブ・ラーニング導入などが求められており、どのように運用すべきかが良く分かった。
- 高尚な目標、ミニマム・リクワイアメントを目指しながら低いレベルでも達成できてしまう可能性が残っているようで、今後さらに規制的に皆がほぼ同程度の強さのリクワイアメントが設定できるように工夫したら良いと思った。
- JABEEとの関連についても説明いただいたので助かった。どのようにシラバスを作成すれば良いかがイメージできた。
- アウトカムズ評価の重要性が理解できた。また、コンピテンシーモデルをどのように付加するかが課題であることが理解できた。
- 内容が複雑なので、授業の1回目に学生には口頭で説明した方が良いと思った。
- 新シラバスの作成は、向学心の高い学生にとって大きなプラス効果が生まれるだろうと思った。
- 学力の評価（教育評価）の基本が詳しく解説され、学習の実質化に向けて、シラバスの改善・改訂に向けた指針が示された。情報科学部ではJABEEの基準で作成済の内容との整合性を今後検討して改訂に取り組みたい。
- 到達目標・評価方法・成績評価基準の構成方法について最低限のイメージを得ることができた。
- 評価方法の記入内容についてサンプルをいくつか示していただけだったので、改革の方向が良く理解できた。

## 寄稿「2016年度のFD成果」



教育センター長  
(工学部総合人間学系教室 教授)  
椋平 淳

本学におけるFD活動は、どのような段階にあるのか。それを特定する観点はさまざまです。たとえば、FDの導入に始まり、各種活動を展開するなかで、効果・効率を高めつつ、さらに多様な活動に取り組み、有機的に相互連携を深める、といった「活動内容」の進展に着目する観点。あるいは、外発的な行動から、内発的な取り組みへと昇華していく「主体性」という観点、など。

今更ながらこのような素朴な前置きをしている訳は、他でもありません。FD活動の前進に向けた工大教職員集団の実力を実感する事実が、今年度だけで2つ確認できたと思えるからです。

一つ目は、例の11月のFD・SDフォーラムでテーマとなった「ミニマム・リクワイアメントの明示」の件。ご記憶の方も多いと思いますが、野村教務部長の知見と示唆に富んだ明晰な理論づけの一方で、私が紹介したいくつかのサンプルに消化不良をお感じになり、質疑応答やアンケートで戸惑いを表明された先生方も少なからずおられました（無論、サンプルを提供してくださった各学科の先生方にはまったく非はなく、責はひとえに私の拙い説明にあります）。その後、年末までに提出いただいたシラバス原稿には、先生方のご苦

労の跡が滲んでいました。それを教務課員が点検し、さらに私が分析したところ、初稿の段階でミニマム・リクワイアメントを「完璧、あるいはおおむね的確に明示」できていると判断できるケースは、4学部全体で約6割強でした（学部・学科によって差はありますが、校正時に改善が進むため、最終的な値は当然上昇していると思われます）。この割合の評価は当然、人によって異なります。ただ、個人的には、少なくとも取り組み初年度としては、良好な出だしとして納得できる結果ではないかと、今後への期待も込めて考えています。

二つ目は、工学部で実施した「授業アンケートと成績データを活用したFD活動」の件。15年度のフォーラムで全学に紹介させていただいたとおり、アンケート結果と成績にもとづく受講生の分布傾向を参照し、個々の先生方が各自の授業について改めて自己分析するとともに、学科単位で情報共有・意見交換することで、組織的に授業力を向上させる2年がかりの取り組みでした。意見交換の内容に関する報告書が各学科から昨秋に提出されましたが、その報告内容が予想以上に重厚で、先生方が手間のかかる作業に真摯に取り組まれた様子を読み取れます（詳細は今後、全学的に共有させていただく予定です）。

以上、わずか2つの例にすぎません。とはいえ、FD活動が不断の取り組みの積み重ねであることは重々理解しつつも、今年度については、一人ひとりの活動が良好な足跡を明確に記した一年だったのでないかと振り返っています。



## 2016年度後期に実施した授業アンケートの概要と集計結果を報告します

【実施科目数等】 ※実施期間：第14回目または第15回目（8週で終了するクォーター科目は第7回目または第8回目）

区分	対象科目	科目数	履修者数	回答者数	回答率 (%)
学部	後期前半クォーター科目	3	9	2	22.2
	後期科目	1,567	59,893	41,136	68.7
	後期後半クォーター科目	—	—	—	—
大学院	後期前半クォーター科目	6	100	12	12.0
	後期科目	110	887	449	50.6
	後期後半クォーター科目	6	107	26	24.3
合計	後期前半クォーター科目	9	109	14	12.8
	後期科目	1,677	60,780	41,585	68.4
	後期後半クォーター科目	6	107	26	24.3
総計	後期全科目	1,692	60,996	41,625	68.2

### 【設問項目】

設問内容	選択肢
問1 この授業は、「授業のねらい、到達目標、進め方、使用する教科書・参考書、成績評価方法」について、授業初回に資料などを用いて説明が適切に行われましたか？	5:適切であった 4:ほぼ適切であった 3:どちらとも言えない 2:あまり適切でなかった 1:まったくなかった
問2 この授業は、シラバス記載内容あるいは授業初回の説明に沿って進みましたか？	5:進んだ 4:ほぼ進んだ 3:どちらとも言えない 2:あまり進まなかった 1:まったく進まなかった
問3 この授業は、学生の理解度を配慮しながら進められましたか？	5:強くそう思う 4:ややそう思う 3:どちらとも言えない 2:あまりそう思わない 1:まったくそう思わない
問4 この授業は、教員の話し方は明瞭で、わかりやすかったですか？	5:強くそう思う 4:ややそう思う 3:どちらとも言えない 2:あまりそう思わない 1:まったくそう思わない
問5 この授業は、黒板の使い方、文字の大きさ・見やすさ、映像資料の図や文字の見やすさ、は適切でしたか？	5:適切であった 4:ほぼ適切であった 3:どちらとも言えない 2:あまり適切ではなかった 1:まったく適切ではなかった
問6 この授業の進行度は、内容を理解し到達目標を達成するのに適切でしたか？	5:適切であった 4:ほぼ適切であった 3:どちらとも言えない 2:あまり適切ではなかった 1:まったく適切ではなかった
問7 あなたは現時点で、この授業の到達目標をどの程度達成できたと思いますか？	5:100%~90% 4:90%未満~80% 3:80%未満~70% 2:70%未満~60% 1:60%未満
問8 この授業1回あたり平均して、予習・復習・レポート作成・課題作成（準備）に何時間かけましたか？	5:3時間以上 4:2時間台 3:1時間台 2:30分~1時間 1:30分未満
問9 総合的に考えて、この授業を受講してよかったと思いますか？	5:強くそう思う 4:ややそう思う 3:どちらとも言えない 2:あまりそう思わない 1:まったくそう思わない
問10 この授業を良くするための意見、改善して欲しい事項があれば入力してください。	自由記述

### 【集計結果】 ※大学院を除く

学部	学科等	科目数	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	
工学部	都市デザイン工学科	31	4.19	4.20	3.97	3.99	3.94	4.02	3.33	3.03	3.99	
	空間デザイン学科	37	4.24	4.25	4.03	4.06	4.10	4.08	3.36	2.94	4.21	
	建築学科	29	4.30	4.28	4.05	4.12	4.13	4.14	3.30	2.90	4.29	
	機械工学科	(後期前半クォーター科目)	2	4.00	5.00	4.00	4.00	5.00	4.00	3.00	4.00	
			93	4.24	4.25	4.00	4.05	4.06	4.06	3.17	2.67	4.09
	ロボット工学科		83	4.28	4.30	4.00	4.08	4.08	4.05	3.14	2.62	4.13
	電気電子システム工学科		37	4.25	4.30	3.96	4.03	4.03	4.05	2.96	2.70	4.12
	電子情報通信工学科	(後期前半クォーター科目)	1	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	3.00	3.00	5.00
			78	4.26	4.24	3.97	4.03	4.04	4.05	3.14	2.79	4.07
	応用化学科		39	4.41	4.43	4.10	4.15	4.20	4.17	2.90	2.90	4.17
	環境工学科		42	4.22	4.24	3.98	4.05	4.03	4.03	3.21	2.79	4.06
	生命工学科		53	4.35	4.38	4.02	4.11	4.09	4.13	3.22	2.88	4.11
	生体医工学科		5	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	共通科目		82	4.41	4.40	4.31	4.32	4.33	4.38	3.25	2.46	4.28
	その他連携科目		8	4.17	4.20	4.02	4.03	4.07	4.05	3.39	1.96	4.10
	キャリア形成の基礎		198	4.33	4.39	4.17	4.21	4.20	4.20	3.46	2.18	4.10
工学の基礎		169	4.18	4.22	3.90	3.96	4.03	3.97	3.23	2.47	3.95	
数理科学と教育		21	4.49	4.52	4.37	4.35	4.36	4.39	3.41	2.59	4.30	
情報科学部	コンピュータ科学科	58	4.20	4.22	3.92	3.94	3.99	4.01	3.03	2.66	3.96	
	情報システム学科	58	4.20	4.25	3.94	3.96	4.00	4.00	3.12	2.78	4.03	
	情報メディア学科	61	4.09	4.17	3.79	3.84	3.91	3.91	3.02	2.78	3.90	
	情報ネットワーク学科	55	4.13	4.13	3.83	3.88	3.96	3.90	2.78	2.74	3.86	
	共通科目		109	4.15	4.19	3.95	3.98	4.02	4.01	3.06	2.26	3.90
知的財産学部	専門科目	41	4.65	4.68	4.56	4.54	4.58	4.57	3.50	2.68	4.63	
	基礎教育科目	32	4.69	4.78	4.69	4.78	4.78	4.72	3.58	2.39	4.69	
	その他連携科目	3	4.39	4.25	4.21	4.35	4.18	4.30	3.39	3.34	4.22	
	導入領域	16	4.58	4.55	4.45	4.51	4.44	4.48	3.83	3.02	4.45	
	教養領域	41	4.41	4.38	4.22	4.22	4.24	4.27	3.48	2.73	4.16	
	専門領域	22	4.43	4.41	4.27	4.39	4.28	4.27	3.52	2.99	4.27	
	展開領域	41	4.33	4.31	4.09	4.14	4.12	4.14	3.32	2.95	4.10	
	教職科目	25	4.60	4.59	4.49	4.61	4.51	4.52	3.44	2.60	4.61	
平均(合計)	(後期前半クォーター科目)	3	4.50	5.00	4.50	4.50	5.00	4.50	3.00	3.00	4.50	
		1,567	4.25	4.28	4.01	4.06	4.08	4.07	3.20	2.60	4.05	
総計		1,570	4.26	4.30	4.02	4.07	4.10	4.08	3.24	2.58	4.08	

## 授業科目に係る情報の公開について

教育の質向上や教育効果の測定に関わる全学的な取り組みとして、2014年度から授業アンケートの結果および当該授業科目の受講者数、成績分布、合格率等の授業情報について公開を行いました。

本学では授業アンケートの継続実施だけでなく、授業参観の実施やシラバス記載事項の見直しなどの教育改善に取り組んでいます。それらに加え、さらなる教育の質向上を図る一つの方策として、授業アンケート結果の公開範囲を拡大しました。

大学ホームページ「在学生の方へ」画面の「学生による授業アンケート結果・成績評価状況等（学内専用）」をクリックしてご参照ください。

～FD NEWSを教職員の情報共有にお役立てください～

学部・学科・小グループ・個人での取り組みや活動をFD NEWSに投稿してください。  
授業運営上の悩みを解決した方法などがあれば情報共有していきましょう。

【お問合せ先】

大阪工業大学教務部教務課  
TEL.06-6954-4083  
FAX.06-6954-4049  
OIT.FD@joshu.ac.jp